

第3次臼杵市子ども読書活動推進計画 ～うすき読書のまちづくりプラン～

【令和3年度～令和7年度】

「本が大好き」「臼杵大好き」「臼杵っこ」を育てよう
(案)



令和3年3月

臼杵市教育委員会

目 次

第1章	計画の策定にあたって	1
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の概要	2
3	計画の主なポイント	3
4	計画の位置づけ	3
5	概要図	4
6	現状と課題	5
1)	市立図書館における現状と課題	6
2)	地域における現状と課題	6
3)	家庭における現状と課題	6
4)	保育所・認定こども園・幼稚園における現状と課題	7
5)	学校における現状と課題	7
第2章	計画の全体像及び目標管理	8
第3章	読書活動推進の具体的な取組	10
1	市民総ぐるみの取組	10
1)	読書のまちづくりステーション(市立図書館)の充実	10
2)	地域における読書活動の充実	13
2	読書習慣の定着	14
1)	家庭における読書活動の推進	14
2)	保育所・認定こども園・幼稚園における読書活動の推進	16
3)	学校における読書活動の推進	17
3	“ふるさと臼杵”を愛する心(郷土愛)の育成	19
1)	臼杵の文化・歴史を学び伝承する活動の推進	19
2)	臼杵の先人・偉人から学ぶふるさと再発見の推進	20

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

臼杵市教育委員会では、平成23年4月に「うすき読書のまちづくりプラン(臼杵市子ども読書活動推進計画)」を策定し、次世代を担う子どもたちの豊かな心の育成を目的とした「読書のまちづくり」に取り組んできました。

第1次プランでは、すべての小中学校に図書館専門員を配置し学校図書館にエアコンを設置するなど子どもの読書環境の改善とともに、学校図書館を活用した「朝読書」「読み聞かせ」「調べる学習」「NIE教育※1」などの取組を推進しました。その結果、ボランティア団体や高齢者・父親部会が読み聞かせを行う活動も始まりました。

第2次プランでは、拠点となる市立図書館のリニューアルによる市民総ぐるみの読書環境の充実と、保育所・幼稚園と連携した臼杵っこ文庫の設置やこども図書館への定期的な来館、子ども図書館内での読み聞かせの会など、幼少期から本に親しめる読書習慣定着のための取組を行いました。また、読書感想文コンクールに読書感想画を取り入れ、親子で読書を楽しむ機会を増やしました。

臼杵市では、令和2年に策定された第2次臼杵市総合計画「日本の心が息づくまち臼杵～『おだやかさ』と『たくましさ』を未来へつなぐ～」の施策の一つとして「読書のまちづくり」が掲げられています。第2次臼杵市総合計画に掲げられた目標の実現に向けて、第2次プランでの取組の成果と課題を踏まえ、「第3次臼杵市子ども読書活動推進計画～うすき読書のまちづくりプラン～」を策定します。

本計画では、第2次プランの方針を継承し「本を楽しく読む・進んで読む」ための取組をさらに推進します。「本を好きになる」ことで読書活動がすすみ、子どもが夢と希望を持って、人生観・社会観・世界観を広げるとともに、豊かな感性・思いやりの心・ふるさとを愛する心を育みます。家庭・地域・学校に読書活動の輪を広げ、市民1人ひとりが自分の気持ちや考えをしっかりと伝えることが

でき、文字や言語による表現力が向上することで、情緒豊かな“臼杵っこ”を育成し、「臼杵を愛する心を育てる」臼杵市読書のまちづくりに取り組みます。

(※1)NIE教育:学校などでの新聞を教材
にした学習活動
(Newspaper in Education)



2 計画の概要

《将来像》

「本が好き」「臼杵大好き」「臼杵っこ」を育てよう

※「臼杵っこ」とは臼杵人を表します。

《将来像のための基本理念》

学校・家庭・地域など市民総ぐるみの読書活動で、市立図書館や学校図書館、保育所や認定こども園・幼稚園などが連携し、読書環境を充実させ、子どもの読書習慣の定着に取り組みます。「本を読む」「本を読んでもらう」ことで本と出会い、人生観・社会観に広がりを持った子どもたちが、本が大好きになり、生涯にわたり「本に親しむ」「本で調べる学習をする」「表現する」「臼杵の歴史や先人と出会う」などの読書活動を継続できるよう、市民総ぐるみの読書活動を推進します。新型コロナウイルス感染症の影響下での新しい生活様式における読書環境の充実に取り組みます。

そのため以下の5つの基本理念のもと、読書活動を推進します。

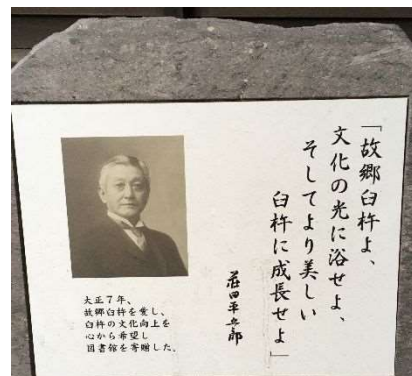
- 臼杵っこの「夢や希望を持ち続け、思いやる心」 を育てます。
- 臼杵っこの「生きる力の基礎となる、読む・書く・聞く・話す力」 を育てます。
- 臼杵っこの「物事を深く感じる豊かな感性」 を育てます。
- 臼杵っこの「臼杵に誇りを持ち、臼杵を大切に想う気持ち」 を育てます。
- 臼杵っこの「人とのつながりを大切にする社会性」 を育てます。

《方針》

- ①「うすき読書のまちづくりステーション」の機能充実により、生涯を通じて本に親しめる機会を提供し、臼杵市民総ぐるみの読書活動に取り組みます。
- ②子どもの読書環境を充実し、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を身につけ思考力・判断力・実践力のある「生きる力」をはぐくむため、読書習慣の定着に取り組みます。
- ③ 臼杵の特性や風土、文化や歴史、臼杵の先人・偉人を生かした読書活動の推進・支援により、郷土愛の育成に取り組みます。

《計画期間》

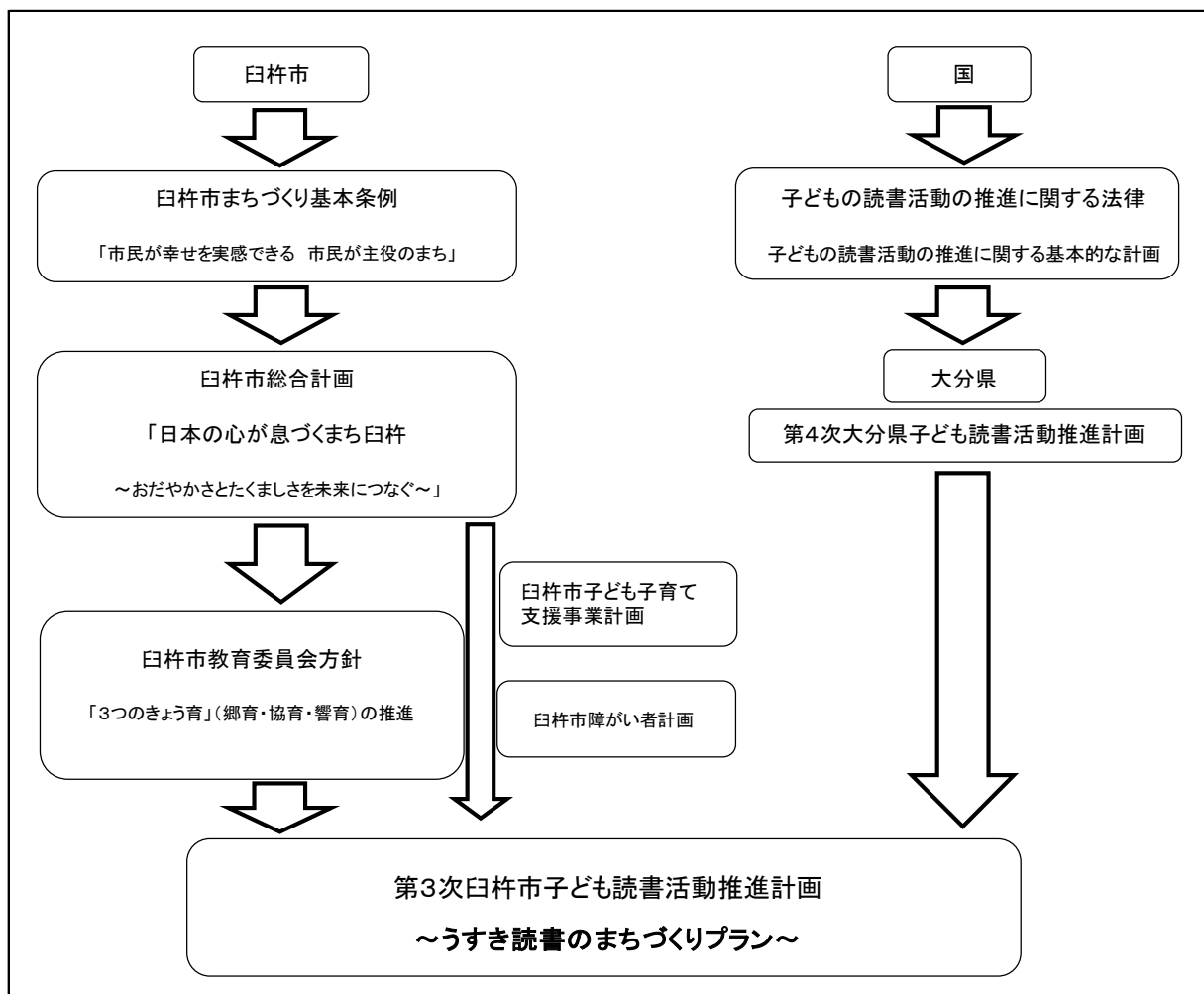
令和3年度から令和7年度までとします。



3 計画の主なポイント

- ①第2次プランにおける成果と課題等の反映
- ②「うすき読書のまちづくりステーション」を核とした市民総ぐるみの読書活動の推進
- ③協育コーディネーター※1を活用した学校(保育所・認定こども園・幼稚園を含む)と地域と家庭の連携による読書活動の推進 H
- ④学校図書館と市立図書館、福祉・保健行政との連携による子育て支援施策としての読書活動の推進
- ⑤臼杵市の特性を活かした読書活動による郷土愛の育成、心の教育の推進

4 計画の位置づけ



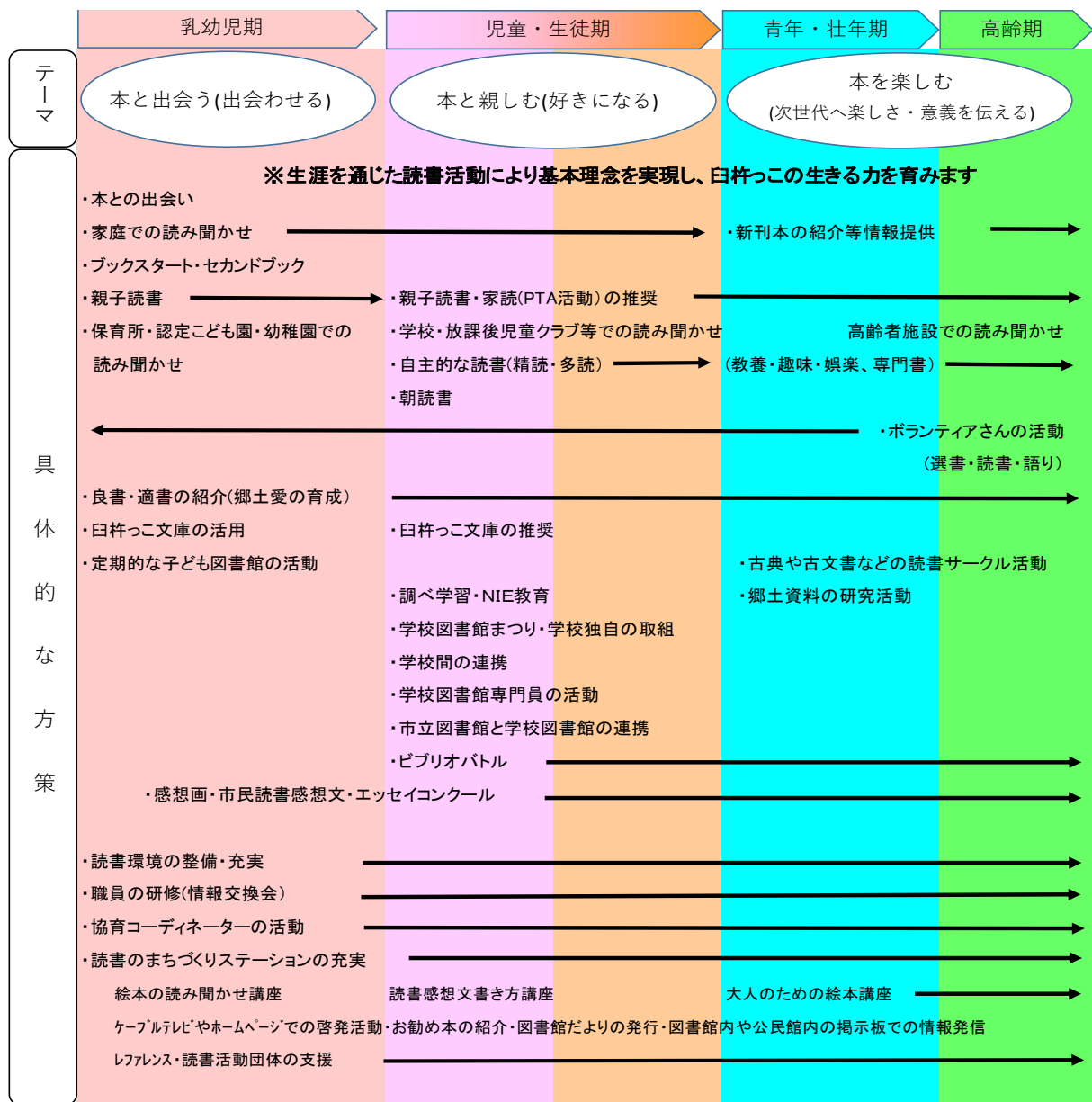
(※1) 協育コーディネーター: 学校・家庭・地域が協働で子どもを育てる「協育ネットワーク」づくりを推進するために、各種団体の活動や組織とのかかわりを調整したり・まとめたり、つなぐ役割を担う人

5 概要図

第3次臼杵市子ども読書活動推進計画(概要図) ～うすき読書のまちづくりプラン～

《将来像》「本が大好き」「臼杵大好き」「臼杵っこ」を育てよう

《基本理念》 臼杵っこの「夢や希望を持ち続け、思いやる心」	を育てます。
臼杵っこの「生きる力の基礎となる、読む・書く・聞く・話す力」	を育てます。
臼杵っこの「物事を深く感じる豊かな感性」	を育てます。
臼杵っこの「臼杵に誇りを持ち、臼杵を大切に想う気持ち」	を育てます。
臼杵っこの「人とのつながりを大切にする社会性」	を育てます。



6 現状と課題

情報社会の著しい進展により、テレビやゲーム・インターネット・スマートフォンなど、さまざまな情報メディアの活用が低年齢化しており、子どもたちの「読書離れ」「活字離れ」「コミュニケーション不足」は深刻化しています。記憶力の退化や注意力・コミュニケーション能力の低下を引き起こすなどの弊害も深刻な問題です。本との出会いは、現実では体験できない創造的・空想的な世界を生み、考え方や生き方を学び世界観を広げ、夢や希望を持つことができます。読書によって、多くの言葉を学び幅広い知識を身につけ、感性を磨き、人とのつながりを深めることができることを改めて周知していく必要があります。

臼杵市教育委員会は、平成23年4月から「うすき読書のまちづくりプラン(臼杵市子ども読書推進計画)」を策定し、読書環境の充実や読書習慣の定着への取組を推進しています。市立図書館が「読書のまちづくりステーション」として読書活動の核となり、乳幼児期から本に親しむ「ブックスタート※1」や荘田平五郎記念こども図書館を拠点とした乳幼児期・大人のための読み聞かせ講座やイベントなどを定期的に実施し定着しました。

また、新成人へのお勧め本の紹介、自主サークルによる読書活動など、生涯を通じて読書活動が行われるように取組を広げています。

県立図書館をはじめ県内他市図書館等との連携により、臼杵図書館にない本を借りることができます。さらに、インターネットを使つての本の予約ができるようになりました。

保育所・認定こども園・幼稚園や学校図書館と連携し、「本が大好きな子どもたち」を育てる取組も定着しています。保護者との連携による親子読書や高齢者の教養・趣味・娯楽の一助となるよう読書活動を奨励する取組も行ってきました。今後は、タブレット端末などの情報機器の活用とあわせて、読書の大切さの啓発や読書習慣定着への継続的な取組が必要です。

市立図書館は、本を読むだけでなく、学習の場や郷土資料の検索など「情報活用機能」の充実を図り、「読む」「書く」「聞く」「話す」が関連し合う「読書のまちづくりステーション」としての役割を担います。

新型コロナウイルス感染症の影響により、家で過ごす時間が増えています。そのような中で、市民が「本と出会い・本に親しみ・本を楽しむ」生活を通して、ふるさと臼杵を愛する心が根付く、「市民総ぐるみの読書活動」のさらなる推進が必要です。

(※1)ブックスタート:赤ちゃんのいる家庭に絵本をプレゼント

して、絵本をきっかけに親子で楽しい時間を過ごしてもらおうとする活動



1) 市立図書館における現状と課題

市立図書館は、読書のまちづくりステーションとして「本を読む」「学習する」「調べる」「癒しの空間」として親しめる環境づくりに取り組んできました。

平成29年から利便性を図るために、一人一度に5冊の貸し出しから10冊貸し出しに変更し、貸出冊数が増加しました。今後も、利用促進を図るため、子どもの知的好奇心を刺激し続けることのできる本、発達段階に適した本、利用者のリクエストに沿った本等、資料の充実に努める必要があります。本離れ、図書館離れが進む、中学生、高校生、ビジネス層が関心を持てるような内容の充実と書架コーナーの工夫も大切です。

第2次プランにより、地域、保育所・認定こども園・幼稚園、学校との連携も進めてきました。保育所・認定こども園の園児の来館時には、司書が読み聞かせを行っています。

今後、すべての園が定期的に利用できるようにする働きかけが必要です。

学校との連携では、図書館見学の受け入れ、学校移動図書、図書館専門員研修への協力、読書感想文コンクールの募集等を行いました。幼少期からの読書活動の積み重ねにより、読書感想文は年々レベルが向上していますが、郷土の作家に親しむために野上弥生子部門の応募を増やすことも必要です。

また、小・中学校の連携の読み聞かせ会の支援を行いました。

今後は、読み聞かせを実施する学校を増やし、さらに保育所・認定こども園・幼稚園と小・中学校の連携を推進する必要があります。



2) 地域における現状と課題

市立図書館による移動図書は、地区公民館やコミュニティセンターに加えて、高齢者施設やデイサービスセンター等についても実施し、積極的に入所者が利用しています。地区公民館には、毎月、図書館だよりを配布し、市立図書館の利用を勧めています。交通事情等により図書館を訪れることが難しいが、本を読みたいという相談もあります。今後は、地域に移動図書があることを周知するとともに、いつでもどこでも本を手にとれる環境をさらに整備する必要があります。

また、地域のボランティアグループが各小中学校で定期的に読み聞かせの活動を行っています。訪問しています。活動は長年継続していますが、学習の場や交流の場がないのが課題です。

支援学校やこどもデイサービス施設も臼杵図書館を利用しています。今後、図書館職員やボランティアによる読み聞かせや移動図書などで地域に訪問する機会を作る必要があります。

3) 家庭における現状と課題

子どもの読書習慣の形成には家庭環境や、保護者の読書に対する意識が重要となります。親子読書のアンケート(令和元年度)の結果をみると、保育所・認定こども園・幼稚園の保護者で、ほとんど毎日読み聞かせをしている家庭が2割、時々読み聞かせをしている家庭が6割となっています。小学校では、学年が進むにつれて家庭での親子読書の回数は減少する傾向にあります。

また、乳児の時から本に親しむ働きかけの取り組みとして、乳幼児健診でのブックスタートで赤ちゃんのための読み聞かせ講座の紹介を継続します。読み聞かせ講座の参加者は、年齢が上がるるとともに減少し、継続しての参加は難しい傾向にあります。

子どもの読書習慣や本好きな子どもを育てるためには、保護者が読書活動の楽しさや大切さを理解する機会が必要です。保護者会で本を読むことについて重要性を確認し、読み聞かせの方法やおすすめの本についての学習をする場も必要となってきます。



4) 保育所・認定こども園・幼稚園における現状と課題

平成29年6月に認可保育園協議会が「絵本」をテーマにちびっこフェスタを開催しました。各園が絵本の楽しさを伝えるブースを設定し、子どもや保護者が絵本の世界を楽しむことができました。

また、蔵書数や図書コーナー設置のスペースの確保に苦慮している園もありますが、多くの園では、日常的に読み聞かせを行い、子どもたちが絵本に触れる活動に取り組み、本を貸し出し、親子読書を推進しています。行事の時には、パネルシアターや大型絵本を使い興味関心を深めている園もあります。家庭環境により、絵本に触れる機会の少ない子どもたちのためにも、園では本と触れ合う機会を様々な場面で設定することが大切です。図書館は、平成29年に25冊、30年に12冊を「園児のための臼杵っ子文庫」として配布しました。各園の図書環境を整備するために、今後も継続して配布する必要があります。

5) 学校における現状と課題

第1次プランによって学校図書館の環境が整い、第2次プランにより学校図書館専門員の研修や協育コーディネーターの助言、臼杵図書館の利用促進が進み、学校の読書活動が向上しています。学校図書館専門員研修により、学校図書館が子どもたちの落ち着ける場として整備されています。

臼杵っ子文庫は、学校図書館専門員と臼杵図書館が協力して選定することにより、充実と利用の促進が図られています。小学生一人当たりの貸し出し数は年々増加していますが、高学年から徐々に少なくなっています。中学生の貸し出し冊数は月平均1.5冊となっており、中学生の学校図書館利用を進める必要があります。

教科学習や総合的な学習の時間等、授業に学校図書館の本を積極的に利用している教職員もあります。

今後は、管理職や司書教諭が中心となり、すべての教職員が積極的に学校図書館を活用することが必要です。

調べる学習では、タブレット端末を使った情報の収集と共に学校図書館の本も並行して使い、課題を解決するという授業の設定も必要です。



第2章 計画の全体像及び目標管理

《将来像》「本が大好き」「臼杵大好き」「臼杵っこ」を育てよう

【計画の全体像】

方 針	目 標	取 組	
1 市民総ぐるみの取組	読書のまちづくりステーション (市立図書館)の充実	1	市立図書館の充実
		2	市立図書館と学校図書館等のネットワーク化
		3	情報活用機能充実による市民活動の支援
		4	ケーブルテレビ・市報・ホームページなどを活用した読書普及・啓発活動
		5	ライフステージ等に応じた「お勧め本」の推進
	地域における読書活動の充実	6	読み聞かせボランティアの育成・支援・活動の推進
		7	読書会(古文書学習・短歌や俳句づくり)等の活動支援
		8	地区公民館・地域振興協議会の拠点等での読書活動の推進
2 読書習慣の定着	家庭における 読書活動の推進	9	家庭(家読)・親子読書の推進
		10	読み聞かせボランティア活動・父親の読み聞かせの推進
		11	放課後児童クラブ・こどもデイサービスでの読書活動の推進
	保育所・認定こども園・幼稚園 における読書活動の推進	12	読み聞かせ・親子読書の推進
		13	保育所・認定こども園・幼稚園の読書環境の充実
	学校における読書活動の推進	14	子どもの「読む」「書く」「聞く」「話す」力の育成
		15	学校図書館の「学習・情報機能」の充実
3 (ふるさと臼杵を愛する心)	臼杵の文化・歴史を学び伝承する 活動の推進	16	「子ども司書」の育成・活動支援
		17	「臼杵っこガイド」等の育成・活動支援(「臼杵大好き」「臼杵っこ」検定の充実を含む)
	臼杵の先人・偉人から学ぶ ふるさと再発見の推進	18	野上弥生子作品や臼杵にゆかりのある書物とのふれあい
		19	吉四六話など臼杵の民話の普及・発掘・二孝女物語などの継承活動
		20	市立図書館と文化施設との連携

【目標管理】

方針	目標	取組指標	平成22年度	平成28年度	令和元年度	令和7年度
1 市民総ぐるみの取組	読書のまちづくりステーション(市立図書館)の充実	荘田平五郎記念こども図書館での貸出冊数	41,512冊	43,069冊	49,311冊	45,000冊
		臼杵図書館(野津分館含む)での貸出冊数 18歳以下	9,337冊	9,778冊	11,319冊	12,000冊
		臼杵図書館(野津分館含む)での貸出冊数 19歳以上	50,701冊	53,204冊	55,526冊	54,000冊
		市立図書館の貸出冊数の合計	101,550冊	106,051冊	116,156冊	114,000冊
		レファレンス※1件数		2,307件	1,622件	2,000件
		読み聞かせ講座参加者数	15人	201人	232人	200人
		ケーブルテレビ・市報・図書館だより等で紹介した冊数		138冊	139冊	150冊
	地域における読書活動の充実	読み聞かせボランティア数		134人	154人	160人
		読書活動団体数	7団体	15団体	14団体	15団体
		移動図書の貸出冊数	2,640冊	5,541冊	9,758冊	9,000冊
2 読書習慣の定着	家庭における読書活動の推進	小学校における読み聞かせ・親子読書の実施率	87.0%	76.9%	72.2%	90.0%
		父親の読み聞かせ実施学校率		26.0%	22.0%	50.0%
	保育所・認定こども園・幼稚園における読書活動の推進	一斉保育の中で自分で選んだ本を読書する時間を設けている保育所・認定こども園・幼稚園数		14	14	14
		親子読書実施の保育所・認定こども園・幼稚園数		13	13	14
		絵本・読書コーナー設置園(所)数		14	13	14
	学校における読書活動推進	読み聞かせボランティア活用学校率	68.0%	84.2%	77.7%	100.0%
		学校図書館の蔵書冊数	151,503冊	142,389冊	148,968冊	150,000冊
		ルビ入りや絵本など親しみやすい本(絵本)コーナーの設置学校率		95.0%	94.0%	100.0%
		臼杵っこ文庫貸出冊数		5,041冊	5,523冊	8,000冊
3 成す心(ふるさと臼杵愛)を育愛	臼杵の文化・歴史を学ぶ・伝承する活動の推進	「子ども司書」認定者総数		10人	42人	110人
		臼杵っこ検定受験者数	115人	90人	143人	150人
		「臼杵っこガイド」の育成・活動支援(「臼杵大好き」臼杵っこ検定の充実を含む)	22名/3回	59名/45回	87名/58回	100名/50回
	臼杵の先人・偉人から学ぶふるさと再発見の推進	市民読書感想文コンクールの野上弥生子作品部門の出品数	3	5	6	5
		吉四六カルタ大会参加者数	117人	93人	74人	100人
		吉四六話大会出場者数	26人	16人	15人	20人

 統計を取っていないため数値が不明



取組の評価を「評価指標」、取組を行った成果を「成果指標」とします。

方針	成果指標	平成22年度	平成28年度	令和元年度	令和7年度
市民総ぐるみの取組	市立図書館利用者数	31,021人	30,560人	27,034人	33,000人
	学校図書館貸出数	216,610冊	251,065冊	234,078冊	250,000冊
読書習慣の定着	小学校児童の平均貸出冊数	97.8冊	130冊	126冊	155冊
	中学校生徒の平均貸出冊数	8.2冊	14冊	14冊	18冊
	家や図書館で全く読書をしない割合(小学校6年生)		17.4%	18.7%	15.0%
ふるさと臼杵を愛する心(郷土愛)の育成	◎ふるさと臼杵を愛する心の育成(郷土愛の育成)は、読書による取組だけでは成果を測定できないため、設定してません。				

◎令和2年3月末で臼杵幼稚園が閉園

◎家や図書館で全く読書をしない割合は、学力状況調査の結果による

(※1)レファレンス:仕事や日常生活、研究する上で何か調べものをする利用者に対し、必要な資料や情報の入手についてサポートをする図書館のサービスのこと

第3章 読書活動推進の具体的な取組

1. 市民総ぐるみの取組



1) 読書のまちづくりステーション(市立図書館)の充実

①市立図書館の充実

臼杵市には、臼杵図書館と併設する荘田平五郎記念館こども図書館、野津分館があります。市立図書館は、市民誰もが「本を読む」「学習する」「調べる」「癒しの空間」として親しむことができるよう、読書環境の充実を図ります。障がい者(児)への合理的配慮を含め、様々なニーズに対応できるよう図書館職員のスキルアップに努め、蔵書管理や貸し出し環境の充実を図ります。館内は、絵本コーナーや臼杵っこ文庫・ビジネス書コーナー等を設置し、テーマごとの展示をするなど、本を選びやすい環境を整えます。

市内のどこに住んでいても市立図書館の本を読むことが出来るように、「地区公民館等への移動図書」「学校移動図書」の実施や、子どもたちがバス等を使って荘田平五郎記念こども図書館を利用しやすいように配慮を行います。放課後児童クラブやこどもデイサービスを活用する子どもたちが読書に親しみ、習慣化するための貸し出しや高齢者等が利用しやすい大活字本の充実を図り、活用を促します。

電子書籍の導入も検討します。

新型コロナウイルス感染症対策等を含め安全対策として、本の消毒や換気等を徹底して行っています。今後も、利用者の安心安全に向けた取り組みを継続します。

②市立図書館と学校図書館等のネットワーク化

読書習慣の定着には、子どもの頃からの読書環境の充実が必須であり、市立図書館と各学校図書館などの連携が不可欠です。市立図書館の図書司書と学校図書館専門員や学校教職員とが協力し、学校図書館の読書活動の推進を行い、協育コーディネーターが学校に訪問します。

また、より多くの情報を得るためにも県立図書館や他市図書館等とネット環境を利用した連携に取り組みます。



市立図書館では、平成29年より、マイナンバーカードで本の貸出手続きができるようになりました。令和元年より、インターネットでの予約も可能となっています。

多くの方に利用していただけるよう幅広く周知を行います。

③情報活用機能充実による市民活動の支援

読書環境や学習環境の整備・充実だけではなく、学校における調べる学習等に対する協力や支援の強化を図ります。市民ニーズが高まっている郷土資料等のレファレンス※1機能を歴史資料館等と連携しながら強化します。

本を好きになる・読書のきっかけともなるように、「“臼杵っこ”読書の日（毎月23日）」の啓発活動や「赤ちゃんのための読み聞かせ講座」「大人のための絵本講座」「読書感想文の書き方講座」などを継続して開催します。図書館でのイベントや本の紹介などケーブルテレビやホームページも活用します。

「読む・書く・表現する」ことを楽しみ、自分の心を豊かにするために各種作品展やコンクールを実施します。特に、45年間行われてきた「読書感想文コンクール」は、小学生から一般の方まで幅広い応募があり、市民の読書に関する関心の深さを表すものです。感想を綴ることは、自分の考えを確かなものにすることであり、人間的な成長を感じさせるものであることから、感想文集発刊を含めて今後もコンクール等を継続します。幼児期を対象とした感想画についても感性豊かな子どもを育て、親子のコミュニケーションの一助となるため継続して取り組みます。

（過去の表彰）

文部科学大臣表彰		
学校	平成17年	臼杵市立下南小学校
	平成19年	大分県立野津高等学校
	平成23年	大分県立海洋科学高等学校
	平成24年	大分県立臼杵高等学校
	平成25年	臼杵市立市浜小学校
	平成28年	臼杵市立野津小学校
	平成30年	臼杵市立臼杵南小学校
図書館	平成22年	臼杵市立臼杵図書館

大分県表彰		
(学校の部「読書活動」)		
平成26年	優秀	臼杵市立下南小学校
(学校の部「学校図書館を活用した授業実践」)		
平成25年	優秀	臼杵市立臼杵小学校
	優秀	臼杵市立市浜小学校
平成27年	最優秀賞	臼杵市立上北小学校
(団体及び個人の部)		
平成27年	優秀	市浜小学校読み聞かせグループきずな(生綱)

西日本読書感想画コンクール		
平成29年	かえるくん	臼杵市立下ノ江小学校

第49回博報賞(国語・日本語教育部門)		
平成30年		臼杵市立臼杵小学校



(※1)レファレンス:仕事や日常生活、研究する上で何か調べものをする利用者に対し、必要な資料や情報の入手についてサポートをする図書館のサービスのこと

④ケーブルテレビ・市報・ホームページなどを活用した読書普及・啓発活動

国は、4月23日を「子ども読書の日」、4月23日～5月12日を「こどもの読書週間」、10月27日～11月9日を「読書週間」と定め、全国的に啓発広報を行っています。

臼杵市でも、毎月23日を「“臼杵っこ”読書の日」と位置づけ、学校を中心に読書イベントを行っています。読書の日が家庭に広がるよう、保護者への取組み強化の呼びかけやホームページを活用して啓発します。

ケーブルテレビやホームページを利用して、毎月1回の新刊紹介や読書感想文・感想画コンクールや各種作品展の入賞作品の紹介など、読書活動に対する関心を高めます。



⑤ライフステージ等に応じた「お勧め本」の推進

乳幼児期や各小・中学生、子育て期や新成人などの各ライフステージに読んで欲しい「お勧め本・絵本」の情報について、保護者をはじめとする各種団体に対して積極的に紹介します。特に、読書習慣の定着のためには、乳幼児期や小・中学生とその保護者の興味関心を高める必要があります。そのために市立図書館・子ども図書館や保育所・認定こども園・幼稚園・学校図書館がお互いに情報を共有し、「お勧め本」を保護者に紹介するなど、ライフステージに応じた「お勧め本・絵本」の推奨を継続します。

【具体的な取組】

- ・乳幼児期では乳幼児健診や家庭教育学級、こども図書館で行われる「読み聞かせ講座」の中や保育所・認定こども園・幼稚園での活動の中で「お勧め本」の読み聞かせを行います。
- ・小中学校では臼杵っこ文庫の推奨を行います。図書館だより、学校内の掲示板での広報、読み聞かせの本として活用します。
- ・子ども司書によるこども園等での読み聞かせ活動の中で「お勧め本」の読み聞かせを行います。
- ・市立図書館でも、臼杵っこ文庫や様々なコーナーの設置や掲示板の活用により推進します。
- ・商工会議所等に対し、ビジネス書を紹介する通信を発行します。
- ・亀城学園、白寿大学等の高齢者の学びの場で「お勧め本」の紹介・推奨をします。



2) 地域における読書活動の充実

①読み聞かせボランティアの育成・支援・活動の推進

荘田平五郎記念こども図書館では、読み聞かせ方法を学べる「大人のための絵本の読み聞かせ講座」、妊娠中や乳児と家族と一緒に絵本を楽しめる「赤ちゃんのための絵本講座」を開催しています。学校や放課後児童クラブ、こども図書館、高齢者施設で読み聞かせボランティアが活動しています。本が大好きな“臼杵っこ”を育てるために、読み聞かせボランティアの育成や研修、読み聞かせボランティア団体への相談支援を継続します。

多くの方に活動していただくために、読み聞かせ指導者の育成や登録制度をPRし確立します。



②読書会(古文書学習・短歌や俳句づくり)等の活動支援

古文書を解説したり、古典を読むことを楽しんだり、短歌や俳句を作ったりする自主グループに、資料を提供するなどの支援を継続します。

本を読むことを楽しむ読書サークルの育成や支援に取り組むために、様々な自主活動団体の支援を行うとともに、新たな活動団体の育成を行います。

野上弥生子作品等の題材を提供するなど、郷土とふれ合える場を設定します。点字サークルが、点字本の作成をするために支援を行います。

③地区公民館・地域振興協議会の拠点等での読書活動の推進

市立図書館による本の配送を希望する地区公民館や連絡事務所への移動図書サービスの周知を強化します。近年活発になっている地域振興協議会などでも、地域の要望に応じた移動図書サービスなどの支援活動を行います。

また、オレンジカフェ※1やカラフルカフェ※2等市内イベント参加者への読み聞かせを行います。多くの市民の読書環境を整え活動を推進するため、中央公民館や地区集会所などの公共施設内に加え、観光施設にも図書コーナーを設置することを検討します。



(※1)オレンジカフェ:認知症の方やその家族だけでなく、地域住民、専門職など誰もが参加し、カフェのような雰囲気の中でお茶を楽しみながら交流する場所

(※2)カラフルカフェ:性別や年齢、障がいの有無に関係なく集い会話を楽しむカフェ(臼杵市福祉課委託事業にて、月に2回週末開催)

2. 読書習慣の定着

1) 家庭における読書活動の推進

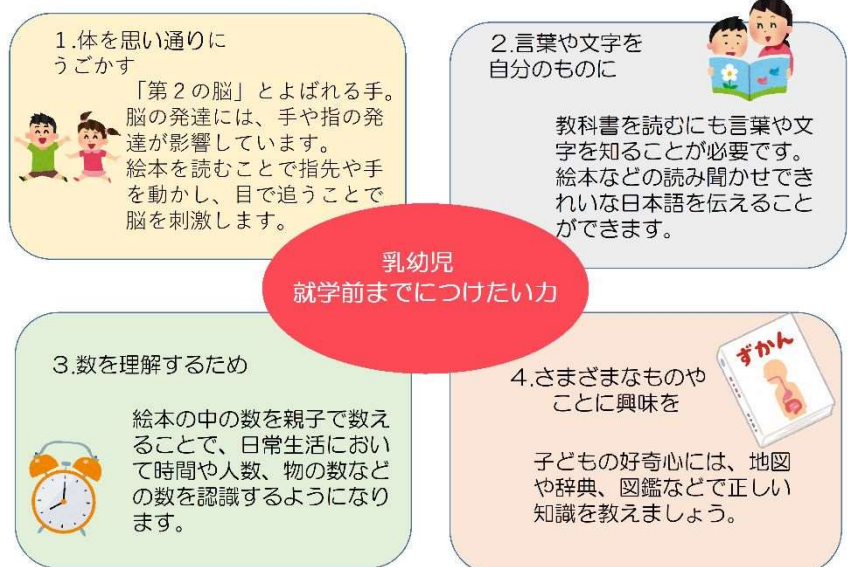
① 家庭(家読)・親子読書の推進

4 ヶ月健診の時間を活用して、おすすめの絵本を渡す「ブックスタート」を行っています。絵本を通じて親子の絆を深め、絵本に親しむきっかけを作るために、読書推進員が読み聞かせをしています。1 歳半健診時では、市立図書館が行う「セカンドブック事業」のお知らせをしています。その中で絵本の読み聞かせの意義や大切さを伝える活動を行っています。これらを今後も継続します。

小学校低学年までに親子のスキンシップや、一緒に読書をする時間の習慣づくりの大切さを周知するよう働きかけます。

「臼杵っこ育ての3か条」第3条の「読書する その姿勢はまず親から！」の周知徹底を行い、親自身が読書を楽しむ姿を見せ、子どもの読書への興味・関心を引き出す取組を支援します。おすすめ本を紹介する「ビブリオバトル※1」や親子で読書をする「家読※2」は、親子のつながりを深め、感動を共有し人生観や社会性を広げることができます。今後も「家読」や「ビブリオバトル」などの活動の継続や読書サークルを開催するなど読書活動を広げる取組を行います

家庭でいつでも本を手にとれる環境を作るため、図書館や書店の利用も勧めます。保護者が読書活動の楽しさや大切さを理解するために、保護者会で本を読むことについて懇談し、読み聞かせ方法やおすすめの本について学習する場を提供します。



(※1) ビブリオバトル: 参加者同士で本を紹介し合い、もっと読みたいと思う本を投票で決める催し(輪読会・読書会の「知的書評合戦」)

(※2) 家読(うちどく): 「家族読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味する。家族みんなで同じ本を読書することで家族のコミュニケーションを深めること

②読み聞かせボランティア活動・父親の読み聞かせの推進

読み聞かせボランティアが放課後児童クラブ、高齢者施設等で活動しています。各小・中学校では、研修部やボランティアが中心となって定期的に朝の読み聞かせを行っています。父親による読み聞かせを行っている学校もあり、父親の子育て参加の促進にもつながっています。

子どもたちが、保護者の読み聞かせをする姿に学び、読み聞かせによって子どもたちの世界観を広げる取組を継続できるように、学校図書館専門員や市立図書館司書が、保護者に対して本の選書や読み聞かせ方法の研修に協力します。



③放課後児童クラブ・こどもデイサービスでの読書活動の推進

放課後児童クラブ・こどもデイサービスで過ごしたのちに帰宅する子どもが増えています。帰宅時間が遅くなり「家では読書をしない」と言う保護者の声が聞かれます。放課後児童クラブやこどもデイサービスでは、読み聞かせ活動を楽しみ、読書時間を設定しているところもあります。家庭で親子読書を楽しみ、本の世界を広げることが望ましいのですが、時間の制約があり、できにくい家庭もあります。

そこで、読書コーナーの設置や読書時間の設定に対する働きかけをします。

また、希望に応じて、読み聞かせボランティアや市立図書館司書による読み聞かせの実施も検討します。



2) 保育所・認定こども園・幼稚園における読書活動の推進

① 読み聞かせ・親子読書の推進

乳幼児期の親子読書は、大人の膝に抱かれて「読んでもらおう」ことで、ぬくもりを感じ、心の安定感や人間関係を築くことにつながります。乳児期の読書は、子どもたちに楽しみや喜び・感動を与える手段として「大人から読んでもらおう」ことから始まり、読書によって子どもの創造の世界を広げ、言語活動の基本となるものです。本の読み聞かせを「親子の信頼関係を築く大切なもの」「子どもの心の成長を促すもの」として、保護者にその大切さや読み聞かせ方法を伝えている保育所・認定こども園・幼稚園が増えています。外出時に絵本や図鑑を持っていき、草花や生き物などを自然に触れる中で子どもたちが自ら見したものを調べ、喜びを感じる活動を行っています。

また、子どもたちが自ら本を選び、ゆっくり本を読むことができる環境と時間を設け、言語発達を促している園もあります。このような取組の継続を働きかけます。

市内の保育所・認定こども園・幼稚園では、活動を行う前や午睡前・帰りの会などで絵本や紙芝居による読み聞かせや絵本を動作化した遊戯や劇の発表会を行うなど、様々な取組を通じて、子どもが本を好きになる活動を行っています。子どもが絵本を選び、落ち着いて読む姿を見て、保護者自身が読書活動に興味を持ち、親子読書のきっかけとすることができます。また、子どもが好きになった本を保護者に読んであげる読み聞かせにより、子どもの成長を実感できる体験を推進します。このような活動を積極的に伝える取組を実施します。

市立図書館は、季節や子どもの成長や発達に適した本や保護者にとっておすすめの本を保育所・認定こども園・幼稚園に紹介し、園の職員を対象とした研修の場の提供を行います。園は、「園だより」などで読み聞かせの大切さを保護者に伝え、親子読書や読み聞かせの普及・啓発に努めます。

② 保育所・認定こども園・幼稚園の読書環境の充実

保育士・幼稚園教諭は、園内に絵本・読書コーナーを設置するなど、子どもが本にふれ、読みやすい読書環境づくりに積極的に取り組んでいます。本や紙芝居を大切にする心や、ものを大切にする心・整理整頓する生活習慣を身につけることが出来るように、園生活の中だけではなく、家庭でもできるように保護者と一緒に子どもを育てていく取組を推進します。園は、市立図書館や家庭と連携して、子どもや保護者が「こども図書館」を利用し、本と親しめる環境づくりを推進します。



市立図書館は、子どもたちが定期的に「こども図書館」で「本を読む」「本を借りる」「絵本を読んでもらうことを楽しむ」ことができる機会や、移動図書を利用して本を借りる機会の提供に努めます。また、「臼杵っ子文庫」の配布などたくさん本を手にとることのできる取組の実施を検討します。

3) 学校における読書活動の推進

① 子どもの「読む」「書く」「聞く」「話す」力の育成

学校図書館を、「読みたい本を自由に選び、読書や調べ学習の楽しさに触れることができる場」「自分の悩みや疑問を本によって解決する場」とします。学校図書館を活用した授業やNIE教育などを行い、「読む」「書く」「聞く」「話す」など生きる力へつながる基本的な力を育みます。各小中学校図書館や市立図書館内にある、「臼杵っこに読ませたい本を選書した「臼杵っこ文庫」の活用や拡大の推進にも取り組んでいます。

小・中学校においては、朝読書読み聞かせボランティアを積極的に活用した読み聞かせの取組を行い、子どもの読書への意欲を高めさせるとともに、読書習慣の定着を目指します。学校図書館専門員による蔵書点検や管理を行い、授業に必要な本や読書で使われる本などは、市立図書館にレファレンスを求め、連携して読書環境の充実を図ります。

学校図書館専門員と図書担当職員が連携して読書環境整え、図書委員会の子ども活動を充実させ、親しみやすい学校図書館を作ります。ビブリオバトルや図書委員会による本の紹介など本を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」力を育みます。図書館便り発行し、“臼杵っこ”読書の日(毎月23日)の啓発や11月の読書キャンペーン・長期休暇前の読書案内などで読書活動の取組を充実させることにより、子どもと保護者が本に興味を持つように努めます。

支援が必要な子どもたちのために、ルビ入りの本などの購入や読みやすい本のコーナーづくりに取り組み、学校図書館専門員が読み聞かせも行います。どの子も家庭でゆっくり読み親しめる本を学校図書館専門員が選書し、複数の本の貸し出しへの配慮をします。



②学校図書館の「学習・情報機能」の充実

市内すべての小・中学校の学校図書館にはエアコンが設置され、長期休暇中も含め毎日学校図書館を利用できる環境が整っています。各学校1名の学校図書館専門員が配置され、年齢(学年)や地域性などを考慮した図書の選書や「調べる学習」などの読書活動支援を行っています。学校で、地域の歴史や先人についての学習、教科や総合的な学習などで情報収集をするための機能を高め、検索しやすいよう配慮した蔵書管理を行います。新聞を活用したNIE教育によって、情報を文字から取り入れ、感想・意見・主張を持つことができる子どもを育成します。

また、ICT※1教育の充実により、児童・生徒全員がタブレット端末を使って取り組む授業が推進されています。疑問に思っていること、調べてみたいことを解決するためにインターネットで答えをさがす児童・生徒も多くなっています。

インターネットに加えて、学校図書館の本を利用して正しい知識や情報をさがす活動に取り組みます。

学校図書館専門員の配置によって、学校図書館の蔵書数や利用状況の正確な把握や図書資料の整備・充実・学校図書館だよりの発行、掲示物等の充実を図っています。学校図書館を、本を読む、本で調べるだけでなく、子どもたちが落ち着ける居場所、癒しの空間としても活用します。近年、支援が必要な子どもや不登校の傾向にある子どもの居場所としても、学校図書館は活用されています。その対応ができるよう学校図書館専門員の質の向上を図る必要があり研修等を強化します。

読書のまちづくりステーションである市立図書館と連携し、学校図書館の運営の充実を図るとともに、図書資料の充実や団体貸出の利用促進にも取り組みます。

◎学校図書専門員の業務・・・「学校図書館の運営」「学校図書館活用授業のサポート」市内の全児童・生徒が、毎日開館・整理された学校図書館を利用して図書資料の提供やレファレンスサービス(紹介・提供)を受けることにより、読書習慣の定着や読解力・情報活用能力を身に付けることができるように、すべての小中学校へ配置しています。



(※1)ICT:情報通信技術(Information and Communication Technology)

3. “ふるさと臼杵”を愛する心(郷土愛)の育成

1) 臼杵の文化・歴史を学び伝承する活動の推進

①「子ども司書」の育成・活動支援

平成28年度より子ども司書育成講座を開催しています。

1日司書体験や認定こども園での読み聞かせ、「子ども読書の日」や「星の宵」での読み聞かせなどを行い、本の楽しさを多くの人に伝える活動をしています。

その活動を通じて、自らを高め様々なことに興味関心を持ち、積極的に新しいことに挑戦しています。

今後は、図書館展示や調べる学習で郷土を知り、愛着と誇りを育む活動に取り組みます。学校でも読書の楽しさを友達に伝える活動を積極的に行います。



②「臼杵っこガイド」等の育成・活動支援(「臼杵大好き“臼杵っこ”検定」の充実を含む)

臼杵の遺跡や史跡、先人の足跡など18の道(ルート)をたどって、ふるさと臼杵の歴史を発見するという内容の副読本『臼杵の歴史発見ルート18』の活用を促進し、臼杵市の歴史、文化の知識を問う「臼杵大好き“臼杵っこ”検定」の受験を推進します。受験をきっかけにふるさと臼杵に対する興味関心を深め、郷土への愛着の育成を図ります。この検定で一定の点数以上を取り、臼杵っこガイド講習を受講した小・中学生が、臼杵石仏で「臼杵っこガイド」として活躍中です。国宝「臼杵石仏」のガイドを通じて、臼杵への想いを高めている臼杵っこは初々しく、観光客を丁寧に案内し好評です。

そのほか、歴史資料館では「臼杵っこ学芸員」として、常設展示の案内を行っています。また、川登小学校では風連鍾乳洞のガイド活動を継続しています。

臼杵の文化と歴史を案内するガイド活動は、様々な年代や集団の方との出会いがあり、対象者に合わせてガイド内容や話術を工夫することが必要なため、コミュニケーション能力に磨きをかけ自分に自信を持つこともできます。先輩ガイドの姿を見て、憧れを抱き、目標を持って頑張ることができる子どもの育成にもつながっています。英語でのガイドに挑戦する子どももいます。

将来、臼杵の文化財保存などに協力する人材としても期待できます。中学生になると部活動との両立が難しくなり、継続が難しいという課題もあります。



今後は学校の協力も得ながらガイド活動時間の工夫を行い、他市から訪れる修学旅行生への案内を行うなど郷土に誇りと愛着を持つ子どもたちの育成に取り組みます。

2) 臼杵の先人・偉人から学ぶふるさと再発見の推進

① 野上弥生子作品や臼杵にゆかりのある書物とのふれあい

臼杵市には、『心の響き』に掲載している野上弥生子・荘田平五郎・吉丸一昌などをはじめ、功績を遺した数多くの先人・偉人がいます。日本とオランダやイギリスとの交流が始まるきっかけを作った三浦按針が漂着したのも臼杵市です。これらの人物と功績について語り継ぎます。

臼杵図書館では「野上作品を読む会」の支援を行っています。今後も「野上弥生子文学記念館」と連携して、臼杵の先人の功績を讃え継承する取組を支援します。

毎年、市立図書館が主催する「読書感想文コンクール」の野上弥生子賞の表彰も継続し、野上弥生子作品を読む機会の提供に努めます。絵本化された野上弥生子作品の活用も推進します。

野上弥生子作品を読むだけではなく、作品の中にある生き方や女性観・子育て観など、忘れかけた地域のつながりや優しさに焦点を当てた学習会や俳句教室などにも取組み、心豊かな生き方を模索できるように努めます。子ども司書や読み聞かせ教室に通う保護者を中心に行います。



② 吉四六話など臼杵の民話の普及・発掘・二孝女物語などの継承活動

親孝行姉妹の行動と、他市の親子を献身的に介護した常陸太田市の人々の優しさなどを描いた二孝女物語の縁で常陸太田市と姉妹都市になりました。紙芝居を活用し、学校教育における道德教育や市民対象の懇談会を継承して実施します。

野津地域は吉四六ゆかりのまちとして親しまれ、吉四六話の看板が44カ所に設置されています。「吉四六話」は230話あり、「吉四六さん笑学校」のメンバーが市内の小学生に語りを伝えるとともに、「吉四六の里 民話かるた」を使用した「吉四六カルタ大会」や「子ども吉四六話大会」「吉四六さんウォーク」等を毎年開催しています。

大会出場を目指し、吉四六話をはじめ、とんち話や落語の本も読むようになった子どもたちが大会に出場することで、話す力や聞く力が向上し、達成感や自信を持つことにより、吉四六話ボランティアとしての活躍が期待されます。

吉四六話をきっかけにした方言や作文、地域の昔話の採集などの学習・語り手の育

成にも取り組みます

臼杵ミワリークラブが行っている「臼杵妖怪物語」の語りもテレビ放映されるなど、市内外へ臼杵市をPRし郷土への関心と愛着を深めています。

また、市内の各所に地域発展のために尽力した先人の石碑や伝承等があります。それらを知る活動を地域で取り組むことにより郷土を愛する心を育みます。

今後も臼杵の民話の普及・発掘・郷土学習に取り組みます。



③市立図書館と文化施設との連携

市立図書館は「旧臼杵藩主 稲葉家下屋敷・旧平井家住宅」と隣接しており、「臼杵城址」「二王座歴史の道」など多くの歴史が薫る環境の中に立地されています。

また、「臼杵市歴史資料館」では、歴史的価値の高い臼杵の歴史資料を展示公開しています。

まち全体に歴史や文化を学べる環境があるため、市立図書館で調べる学習をする市民や学生がいます。これらに対するレファレンス機能を高めるとともに、古文書学習会等の支援も行い、文化施設や学校との連携を深め、多くの市民や臼杵を訪れる方々に臼杵の歴史や文化と触れ合える機会を提供します。

近年、移住定住者や観光客が増える状況を踏まえ、観光パンフレットとともに臼杵ゆかりの書物や吉四六話など臼杵の歴史や文化に触れることができる取り組みを推進します。



歴史資料館



稲葉家下屋敷